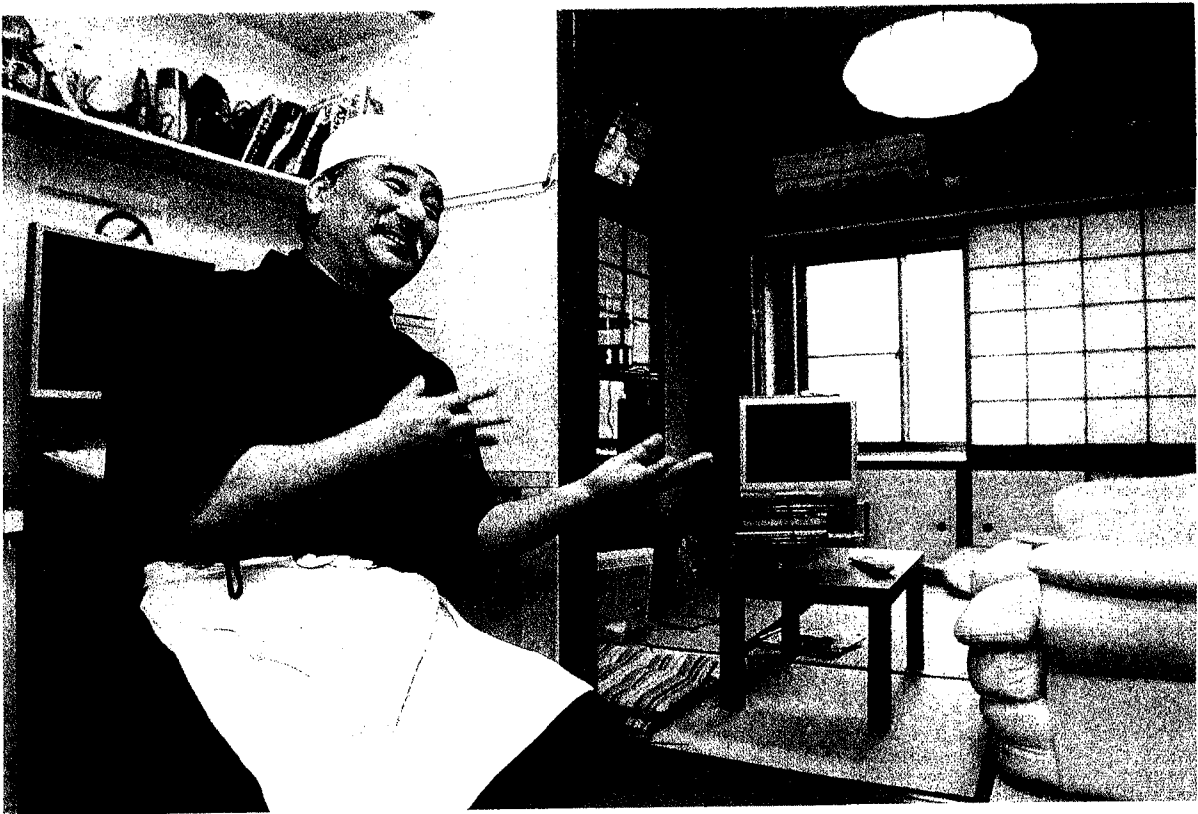


地元で元気に老いる



そば屋を営みながらゲストハウスも運営し、近所の持ち家を老人ホームとして提供している鈴木さん(16日、墨田区で)＝中司雅信撮影

持ち家でミニ老人ホーム

ネギトロ天せいろ 980円。日本そばの寿々喜屋(墨田区石原)では、これが、一品ものの最高値。ぜいたくの極致。

店の2階と3階にある、下宿スタイルのゲストハウスの住人たちはめいめい、月に一度、部屋代持参でやってくる。すると、店主で、大家の鈴木隆司さん(52)は、店の品を各自一品ずつ振る舞うことになっている。

当初こそ遠慮して、安めの

ためぎそばあたりできりあけた連中も、慣れるにつれ、たまらず、リッチなネギトロ一直線に。「あいっらぁぁー」と、生まれ育ちが下町の鈴木さん、けっこう口は悪い。

6年前、ゲストハウスのオープン当初は、欧米からのバックパッカーも目立ち、華やいた雰囲気だったが、まもなく一変した。

枝川公一の 東京ストーリー

まず地方で吹き荒れたリストラ、倒産の嵐。鈴木さんによれば、「失業手当を握りしめたお兄ちゃん、お姉ちゃん、お姉ちゃんたちが、東京へ行けば何とかなると押し寄せてきた。ウチも、のどかなバックパッカー気分のガイジンは消え

た」と。しかしこれは、自分自身の

人生に、より大きな意味を持つ事態の先駆けに過ぎないことに、やがて気づかされる。

自身の50代を前にして、高齢の父と母が重い疾患に侵されてしまう。こうなると、父も母も老人ホームを頼る以外に、選択の余地がないことを思い知らされる。死んでいくまで、受け身で生きることを求められる。

父母をホームへ送っていく道々、何度もつぶやいたという。「明日は我が身」と。

鈴木さんは言う。「東京の街は、年寄りに冷たすぎる。老人が片隅に追いやられていくのがいまの風景。大手を振って偉そうにしているのが当然なのに。欧米の街角には、老人が元気にたむろっている。それが当たり前はず」

それでは、この東京で、高齢者がもっと自由に生きることは可能だろうか。

鈴木さんが提唱するのはミニ老人ホームのアイデア。鈴木さんには、はじめ、父親と母親のついでに住み家として建てた家がある。ところが、親たちには住みきれないとわかってくる。

その時点から街へ向かって、その家を開くことを考える。

つまり、老人ホームとして活用し、できれば地域の高齢者たちに住んでもらいたい。街へ向かって開かれた老人ホームである。2月に開設した老人ホームの管理運営は、NPO法人に委ねられる。

鈴木さんの言う「街の大家さん」が生まれていけば、地域の人たちの手で、高齢者の自由を束縛するのではなく、温かく見守る体制が生まれるのを期待できる。

(ノンフィクション作家)

視点

長命社会

日焼けした顔に汗を浮かべて階段を上る。「きょうは暑いねえ。ご飯？ 好き嫌いないから、何でも食べますよ」。毎朝6時前からAさん(81)は公園を回って草むしりをしている。認知症はあるが元気だ。東京都墨田区にある、NPO法人・自立支援センターふるさとの会の「ふるさと晃荘」にAさんがやってきたのは1年前。入所していた老人施設「静養ホームたまゆら」が火事になり10人が犠牲になった。東京都墨田区からの6人も含まれていた。Aさんは生き残った1人である。

日本の高齢化は世界最先端を走るが、これまでとは違う段階に進んでいる。高齢化の主舞台が地方から都市へ移り、かつてない量と速度で高齢層が膨張し

都市の高齢化を希望に 論説委員 野沢 和弘

ているのだ。都内では認知症や車いすの路上生活者もいる。家族が介護しそれが無理なら施設へという、わが国伝統の「高齢者福祉のかたち」は転換を迫られている。介護する家族は疲弊し、施設を建てる財政の余裕もない。むしろ劣悪な施設で心身の状態が悪くなるのが問題になっているのだ。

古いアパートを改築した「ふるさと晃荘」には18人の高齢者が暮らしている。生活保護で部屋代や食事を賄うため居室は狭いが、すべて個室で空調付きだ。若い職員を中心に勤務体制を組み、訪問医療や看護など必要な医療や介護サービスを使って入居者の生活を守っている。

墨田区は行き場のない高齢者を「たまゆら」に送ったが、区内には空いている店舗やアパートがたくさんある。ふるさとの会は空き物件を改装して生活困窮者や高齢者に24時間体制で寄り添う「支援付き住宅」を試み

ている。認知症や末期がんの人も珍しくない。家族や金がなくても街で孤立せず最期まで暮らせることを証明している。

深刻な財政難に直面しながら年々増える社会保障費を背負っているのが今の日本の姿である。しかし、暗い未来図ばかり描いているわけにはいかない。

医療や介護は雇用の受け皿だけでなく、高度技術が集積した付加価値の高い成長産業としても期待される。高齢者の経験や知識を活用してビジネスチャンスの拡大に乗り出す企業もある。09年の国内の消費支出は前年より落ちたが、60歳以上だけが伸びた。消費者としても高齢者は存在感を増している。いずれは欧州やアジア各国も日本に続く。地球規模で人類は長命時代を迎えようとしているのだ。

成熟した社会や文化を築く先頭を私たちは走っている。「長命社会」をチャンスに転じる道を視点シリーズで探っていく。

新たな扶助、提言

高齢者支援 NPOなど 国に働きかけへ

介護が必要にもかかわらず身寄りがないなどで適切なケアを受けられない高齢者を支援するNPO法人などが7日、墨田区内で会合を開き、通院の付き添いや異変時の対応などの日常生活支援を生活保護の新しい扶助として制度化していくことを求める提言を発表した。実現に向け国などに働きかけていく。

会合は「支援付き住宅研究会」（委員長・山岡義典日本NPOセンター代表理事）の主催。ワーキンググループにあたる「『支援付き住宅』推進会議」のメンバーのNPO法人や福祉・介護の専門家ら約40人が意見交換した。

提言では、身寄りがなく、経済的に困窮している認知症や末期がんの患者でも「地域における家族的な生活支援や定期的な見守りなどがあ

れば、多くの人が、施設に入ることなく、住み慣れた地域で在宅生活ができる」と指摘。こうした生活支援サービスが単独で受給できれば、年金を受け取っていても生活支援がないために病气などが重篤に

なりがちな単身者の介護予防にもなり、医療費の増大にも歯止めをかけることができるとしている。

また、こうしたサービスから医療や介護・福祉の各制度への橋渡しするコーディネーター役に、NPOなど民間の参入を認め、地域の空き家などを「支援付き住宅」に改修する際の制度的な保障や防火設備の設置やバリアフリー化への公的補助を求めている。

支援付き住宅推進会議（50音順）

【共同代表】

高橋 紘士	国際医療福祉大学大学院教授兼医療福祉学部教授（福祉政策、介護保険論、地域ケア）
水田 恵	NPO 法人すまい・まちづくり支援機構 代表理事
山岡 義典	日本NPO センター代表理事／法政大学現代福祉学部教授（市民活動などを行う非営利組織の運営）
粟田 圭一	東京都健康長寿医療センター自立促進と介護予防研究チーム研究部長
石川 治江	NPO 法人ケア・センターやわらぎ 代表理事
井上 孝義	東京都社会福祉協議会医療部会MSW 分科会会長／（社福）信愛報恩会 信愛病院医療社会事業部 医療ソーシャルワーカー
大口 達也	立教大学大学院コミュニティ福祉学研究科博士後期課程・社会福祉士
尾上 義和	精神保健福祉士／藤沢市保健所
佐藤 幹夫	フリージャーナリスト／『ルボ高齢者医療』（岩波書店、2009年）著者
滝脇 憲	NPO 法人ふるさとのお会理事／東京外国語大学非常勤講師
竹島 正	国立精神・神経センター精神保健研究所精神保健計画部長
中島 明子	和洋女子大学生生活科学系教授（居住学、居住政策論、居住福祉論）
中山 徹	大阪府立大学人間社会学部教授（社会政策学）
仁科 伸子	法政大学大学院博士課程
橋本 理	関西大学社会学部准教授（企業論、非営利組織論、産業システムの創成）
林 泰義	NPO法人シーズ・市民活動を支える制度を作る会代表理事
原田由美子	京都女子大学家政学部准教授（介護福祉、高齢者福祉）
平山 洋介	神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授（住宅・都市計画）
布川日佐史	静岡大学人文学部教授（労働経済論）
福原 宏幸	大阪市立大学経済学部教授（労働経済論、社会政策）
本田 徹	浅草病院医師／認定NPO 法人シェア（国際保健協力市民の会）代表理事
的場 由木	保健師／保護司／NPO法人すまい・まちづくり支援機構理事
水内 俊雄	大阪市立大学大学院文学研究科教授・学長補佐（都市社会地理学、都市・地域史研究、国土開発研究、ホームレス問題、ハウジング研究）
宮谷 正子	練馬総合福祉事務所

【個人賛同者】

米倉 克良 生活クラブ生活協同組合グループ市民セクター政策機構専務理事

【支援付き住宅研究会の取り組み】

平成21年2月25日

「高齢被保護者等の地域における居住確保とケアのニーズ調査及びシステム構築の方法に関する研究会 通称：支援付き住宅研究」（平成21年度厚生労働省社会福祉推進事業）を発足

同年 3月19日

「静養ホームたまゆら」で火災

同年 4月20日

厚生労働省記者クラブにて「高齢の生活困窮者が安心して生きていける『支援付き住宅』の緊急提言」

同年 5月11日

ふるさと見学会・意見交換会（行政・学識経験者・マスコミ・医療関係者）

同年 8月1日

第1回「支援付き住宅推進会議」

同年 10月12日

「支援付き住宅推進会議」設立発起人会議

シンポジウム ～たまゆらの悲劇を繰り返さない～「都内・各地域に『支援付き住宅』を」開催

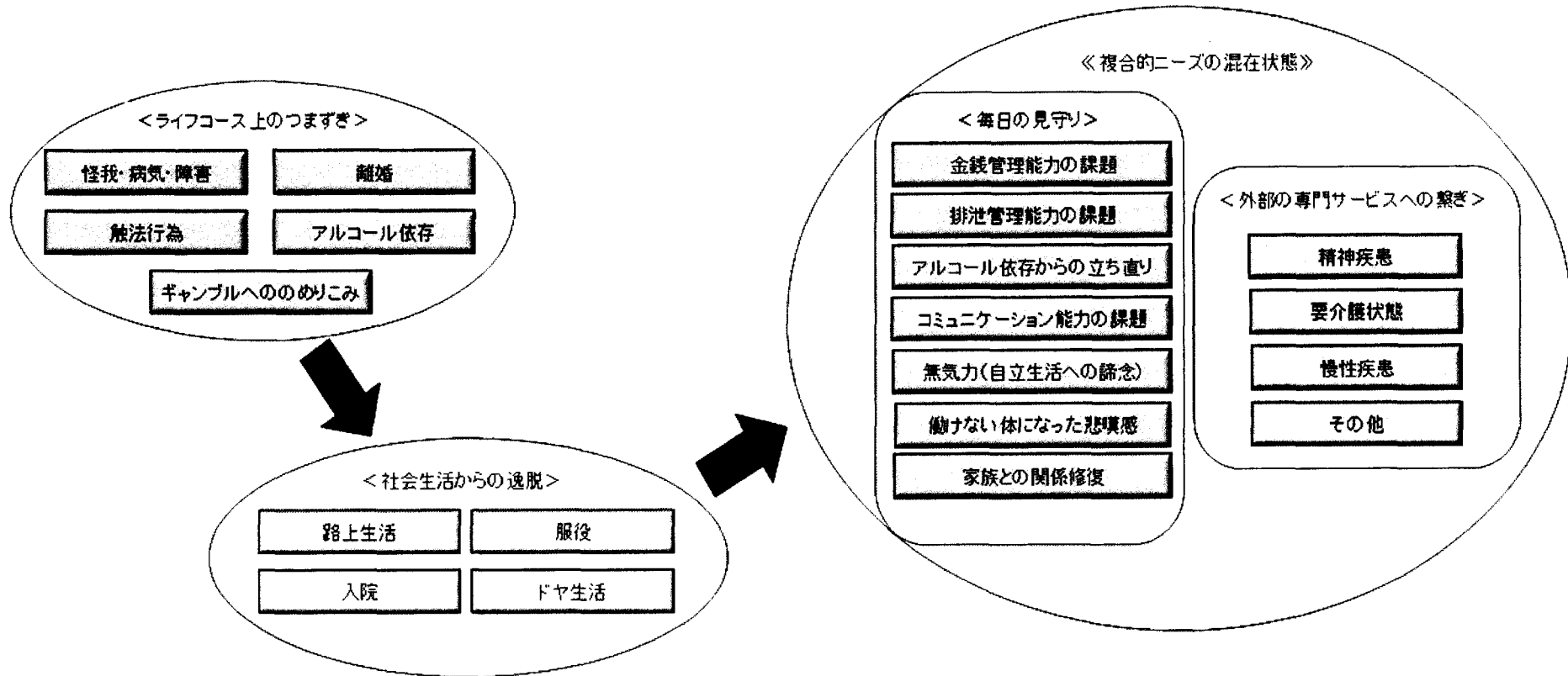
後援 社会福祉法人東京都社会福祉協議会医療部会・『山谷』地域ケア連携をすすめる会

協賛 ホームレス支援全国ネットワーク

平成22年3月19日

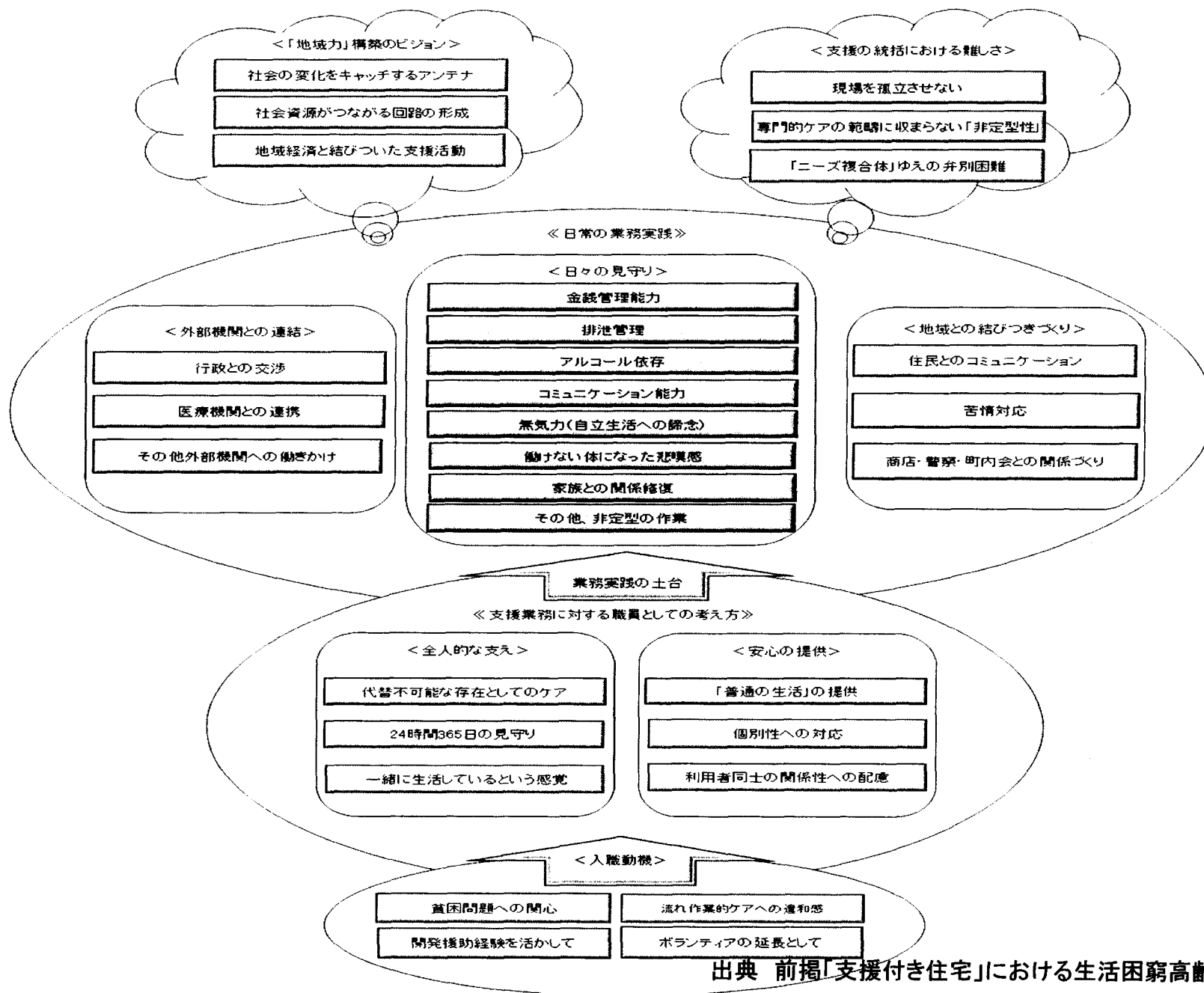
「～たまゆらから一年～メディアカンファレンス」を開催

結果(3) 支援付き住宅の利用者像 (利用に至るプロセスのカテゴリ抽出)



「ライフコース上のつまずき」を経由した「社会生活からの逸脱」というライフイベント
それらに起因する「複合的ニーズの混在状態」
＝「毎日の見守り」＋「外部の専門サービスへの繋ぎ」

結果(4) 職員の生活支援実践を構成する要素



ふるさとの会ケア研修 フォーマット集



研修の目的

1. 日常生活支援に必要な幅広い基礎的知識の習得
2. 緊急時に必要なアセスメントと初期対応ができるようにする

			フォーマット	
I 制度理解	1	介護保険	介護保険の申請手続き・介護保険で利用できるサービス・ケアプランの見方	(アセスメントシート・社会サービス調整シート)
	2	生活保護	生活保護制度の基本知識・保護施設について・宿泊所について	生活保護事例報告・入退所報告書
	3	自立支援法	障がい者自立支援法の申請手続き・利用できるサービス	(アセスメントシート・社会サービス調整シート)
	4	ホームレス自立支援法	ホームレス自立支援法についての基本知識	入退所報告書
	5	更生保護	更生保護の基礎知識・身元引き受けについて・保護観察官と保護司との連携	更生保護事例報告・同歩会フェイスシート
	6	就労支援	就労支援の制度の活用・ケア付き就労の考え方について	就労支援サービス
	7	多重債務	多重債務の整理についての基本知識	金銭管理
	8	権利擁護	後見人制度についての基本知識	金銭管理
II 対象者理解	41	個人情報保護・守秘義務	個人情報保護法と守秘義務についての基礎知識	個人情報取扱改善シート
	9	知的障害・発達障害	知的障害・発達障害では、どのような生活困難があるか	知的障害・発達障害事例報告
	10	高齢者・認知症対応	高齢者に多い症状や身体機能の状態・認知症はどのような生活困難があるか	認知症事例報告
	11	アルコール依存・アディクション	アルコール対応の基本	飲酒対応報告
	12	薬物依存	薬物依存の実態	薬物依存事例報告書
	13	統合失調症	統合失調症の理解	統合失調症事例報告
	14	不安神経症・うつ	不安神経症やうつの基本的な理解と対応	不安神経症事例報告・うつ病事例報告
	15	HIV	HIVの基本知識と理解	感染症事例報告
	16	性の理解	セクシャルマイノリティの利用者への理解・セクハラ対応について	性に関する事例報告
	17	終末期のケア	終末期の理解とケア	終末期ケア事例報告書
	18	刑事施設出所者	刑事施設出所者への理解と対応	同歩会フェイスシート
	19	自殺のリスクと対応	自殺のリスクの高い利用者の理解と対応	自殺リスク事例報告
	20	路上生活	路上生活の心身への影響	路上生活者支援事例報告書
	21	虐待・暴力	虐待と暴力について考える	虐待事例報告
	22	人格障害	境界性パーソナリティ障害の理解と対応 / 自傷・リストカットへの対応	人格障害事例報告
III コーディネート	37	糖尿病	糖尿病の基礎知識・日常生活の注意点など	糖尿病事例検討報告書
	38	結核	結核の基礎知識・DOTSの理解	(感染症事例報告)
	23	カンファレンス	カンファレンスの実際(どのような時期にどのように開催するか)	カンファレンス記録
	24	アセスメントの方法	必要な支援・サービスを考える視点	アセスメントシート
	25	社会サービス機関との連携	社会サービス機関との連携・トラブルなど	社会サービス調整シート
	26	対人援助論	対人援助論の実際	対人援助事例報告
IV 生活支援	42	ケアとアート	ケアとアートについて / 自己表現について / ギャラリーカフェの役割と活用	なし
	27	金銭管理	金銭管理の基本・帳簿つけ	金銭管理
	28	服薬管理	服薬管理の基本・服薬管理ミスをしなくするために	服薬管理
	29	喫煙対応・防災	防災対策の基本・日常で気をつけること	防災・喫煙対応報告書
	30	介護基礎知識①外出移動	介護技術の基本・車いすの操作など	なし
	39	介護基礎知識②食事	介護技術の基本・食事	日常生活介護状況報告シート
	40	介護基礎知識③排泄	介護技術の基本・排泄ケア	日常生活介護状況報告シート
	31	計測	体温のはかり方、血圧計の使い方など	なし
	32	感染症対策	基本的な感染症対策・シラミ対策・疥癬対策・ノロウイルス対策	感染症事例報告
	33	応急処置	救命講習	なし
34	体調不良時の対応	看護師・医師への連絡と対応	体調不良時の対応シート	
35	医療的ケアの範囲	医療的ケアについて	医療的ケア事例報告	
36	救急搬送	救急車の呼び方	救急搬送	

* 実際の支援事例をもとにして話し合い形式での研修を行う